

平成27年度 日南市立大堂津小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン

「自ら考え 心豊かで たくましい大堂津っ子の育成」
 全職員の総力によって、一人一人の児童のよさや可能性を見出し伸ばさせるとともに、本校の教育的課題の解決をめざして取り組む。また、「知」「徳」「体」の調和の取れた児童の育成をめざして全教育活動において目標達成に向けた取組を推進する。

【評価】 4（よい） 3（だいたい） 2（もう少し） 1（よくない）

評価項目	主な達成手段	判断基準	対象	評価	総合評価	考察及び改善策	学校関係者評価委員の意見
確かな学力の定着と向上	①教師の指導力の向上	Web学習単元評価システム及び単元テストの正答率	学校	4	3.5	・全ての学年において、前学年時よりも、Web学習単元評価問題の県の平均正答率より10%下回る項目の割合が減少している。また、単元テストの正答率は、国語88、算数87であり、確実な学力の向上が見られる。 ・生徒指導の機能【① 児童に自己存在感を与える。② 児童との共感的関係をつくる。③ 児童に自己決定の場を提供する。】を意識した授業の認識が若干弱い。 ・家庭との連携を図りながら、個に応じたきめ細かな対応を組織的に行い、全ての児童に学習意欲の向上と学力の定着を図る必要がある。	・Web学習単元評価システムは今後とも継続して取り組んで欲しい。 ・放課後子ども教室においても、自主的に学習を進めることのできる児童の姿が多く見られる。 ・子どもを褒めて伸ばすことが大切である。それが自信となり、次の学習意欲が出てくる。
		各教科のねらいの達成と指導法の工夫や改善の有無	学校	3			
		授業が分かりやすいと思う児童の認識	児童	3.7			
		授業が分かりやすいと思う保護者の認識	保護者	3.5			
	②生徒指導の機能を生かした授業の実践	生徒指導の機能を生かした授業をしている教師の認識	学校	3.1			
		主体的に学習をしているという認識	児童	3.4			
		先生たちは、子どもを励ましながら指導しているという認識	保護者	3.6			
③自力解決、共同解決、考えを深め合うための話し合いの場の設定	話し合いの場を設定した授業の実施	学校	3.4				
	授業の中で友達との話し合いの場があるという認識	児童	3.7				
心の教育の充実	①温かい人間関係に基づいた学級経営の推進	人権を大切にしようとする実践力の育成を図る指導の実施	学校	3.5	3.3	・人権尊重に関する望ましい価値観やよりよい人間関係をつくるための技能に関しては肯定的な評価が多く、学校生活に満足している。 ・道徳の時間は、一人一人の児童がこれまでの自己の生き方を見つめ、道徳的価値を内面から自覚し、望ましい道徳性を身に付けていく時間であるが、その充実に係る工夫が弱い。 ・道徳の時間を更に充実させるとともに、気になる児童を全教職員で支援する体制づくりを強化しながら、児童の姿を多面的に捉えるようにしていく必要がある。	・子どもたちは、地域においてもあいさつをよくしている。 ・子どもを褒めて伸ばすことが大切である。 ・褒める材料をたくさん集め、保護者にも知らせ、学校や家庭において、褒められる機会をつくる必要がある。
		楽しく充実した生活を送っているという児童の認識	児童	3.6			
		楽しく充実した生活を送っているという保護者の認識	保護者	3.4			
	②道徳の時間の充実	道徳の時間の実施と充実に係る工夫の有無	学校	2.6			
		友達と助け合い、何事も最後までやり通す行動をしているという児童の認識	児童	3.4			
		友達と助け合い、何事も最後までやり通す行動をしているという保護者の認識	保護者	3.1			
	③元気なあいさつ、相手を思いやる言葉遣いの指導	あいさつや言葉遣いに関するチャンス指導の実施	学校	3.2			
あいさつをしているという児童の認識		児童	3.7				
あいさつをしているという保護者の認識		保護者	3.1				
健康・安全の向上	①基本的な生活習慣の定着を図る指導の充実	基本的な生活習慣が定着しているという認識	学校	2.8	3.2	・児童や保護者の健康・安全への意識が高い。新体力テストの結果を基にした体力向上への取組や複数回の避難訓練の実施といった学校の取組も意識の高揚の一因と成っているのではないかと。	・就寝時刻やメディアの約束などは、保護者の協力や支援がなくてはならないことである。 ・基本的な生活習慣に関して、保護者への啓発を更に行っていく必要がある。 ・保護者と子どもが一緒に参加する避難訓練を行う必要がある。
		早寝早起き朝ごはんができていう児童の認識	児童	3.3			
		早寝早起き朝ごはんができていう保護者の認識	保護者	3.1			
		メディアに関する家庭でのきまりの有無	保護者	3			
	②「体力向上プラン」の確実な実施	体力向上プランが機能しているという認識	学校	3			
		個人目標の達成度	児童	3.2			
	③避難訓練の実施と「自分の身は自分で守る」という意識の高揚	学校が体力の向上に努めているという認識	保護者	3.4			
避難訓練実施の適時性に係る認識		学校	3.3				
行動の仕方が身に付いているという児童の認識		児童	3.6				
家庭・地域社会との連携	①地域の教育力を生かした地域に生きる学校づくり	地域の素材・人材の積極的な活用に努めているという認識	学校	3	3.3	・学校・家庭・地域社会の連携に関しては、肯定的な評価が多い。 ・学校の取組を積極的に公表し、更なる協力関係を築き上げていく必要がある。	・学校、学級だよりやホームページ等で、情報発信がよくなされている。 ・今後とも地域社会と連携した取組を更に推進して欲しい。
		地域の素材・人材の積極的な活用ができていう保護者の認識	保護者	3.5			
	②信頼される開かれた学校づくり	参観日や懇談を魅力あるものに努めているという認識	学校	3.1			
		学校の様子を積極的に公表しているという保護者の認識	保護者	3.4			

次年度の方針

- 確かな学力の定着と向上について、一人一人の児童の実態に配慮した「分かる」授業に努め、見届けを確実にし、自ら学ぶ力、他者から学ぶ力を育成する。
- 心の教育の充実について、心がふれあう機会や場を設け、教職員と児童及び児童相互の温かい人間関係の醸成に努め、他者から学ぶ力、社会から学ぶ力を育成する。
- 健康・安全の向上について、保護者や地域との連携を図りながら継続的な指導に努め、自ら学ぶ力、自然から学ぶ力を育成する。
- 家庭・地域社会との連携について、保護者や地域のニーズを積極的に収集することに努め、その思いや期待に応える教育活動を展開し、社会から学ぶ力、自然から学ぶ力を育成する。